



私の後任も元気で働いているようである。
どんな風景を見ているであろうか。

木綿のハンカチーフ

宮城県寛谷市 横堀弘喜 (70歳)

主人公の男性は、西日本の出身だろうか。

「恋人よ 僕は旅立つ 東へと向かう列車
で」。太田裕美が歌った『木綿のハンカチーフ』は、昭和五十年の年末に発表され、翌年
に大ヒットした曲です。

恋人を田舎に残し、一花咲かせようと都会
へ。刺激的な日々が過ぎ、やがて疎遠に
なってしまう。いつか帰ってくるかと待つ彼女。
最後に彼にねだつたのは…。「ねえ 涙拭く木
綿のハンカチーフ下さい ハンカチーフ下
さい」。

都会で変わっていく恋人と、故郷に残る純
情な女性との手紙のやり取りで綴られたこの
曲は新鮮で、現代のJ・POPのアーティス
トにも大きな影響を与えていた。

歌謡曲とフォークソングの中間に位置する
ポップスを目指した作詞家・松本隆と作曲家・
筒美京平のゴールデンコンビによる、会心の

作。彼女はこのヒットで、確固たるスターの
座を獲得した。かわいらしい高音、明るい性
格と清潔感でアイドル的な人気を得た太田裕
美の代表曲となった。

モノや情報が集まり、キラキラする都会に
漠然と憧れた子どもの頃を思い出す。そして、
離れて暮らす家族や、愛する人に会えない、
現在の社会とを重ねてしまう。

カーステレオから流れる、彼女の爽やかな
歌声が、新鮮でたまらない。今日も一日、仕
事を頑張るぞー。

自転車のマナー

埼玉県戸田市 栗原ハツ江 (79歳)

高齢になり、気付いたことがたくさんあり
ます。その一つが自転車です。

最近、乗り降りするときの動作、ペダルの
踏み方にも老いを感じるようになりました。
しかし、毎日生活をする上で、自転車がな
いと不便です。

「自転車は車道」と、頭では分かっている
も、車道を走るのには勇気が要ります。車の運
転手に迷惑を掛けないように、前後の自転車

に気を付けてペダルをこいでいます。逆に、
車を運転しているときは、車道を走っている
人に注意して運転します（近いうちに免許返
納を検討中）。

また、歩道の広い所は自転車に乗ったり、
あるいは乗らないで押しています。歩いてい
る人に会ったときは端に寄り、邪魔にならな
いように心掛けます。見通しの悪い角では、
必ず降りて道を渡るようにしています。

これからもマナーを守り、事故のない日々
を過ごしたいと思えます。

黄色い声は活力剤

山口県下松市 内山紘一 (80歳)

最近、わが家の周りに新しい家が数軒建ち、
環境が激変した。十人近い幼い子どもたちの声
にぎやかに聞かれるようになった。

いつも夕食は早めに行っているが、毎日のよ
うにそばの空き地で子どもたちが遊んでいる。
甲高い黄色い声が、わが家の食卓に飛び込ん
でくる。所によつては、これが「騒音」に聞
こえてくるらしいが、わが家にとつては「活
気」と捉えている。それによつて、明るい食

【 短 歌 。 俳 句 。 川 柳 】

本誌編集室担当

短 歌

歩行器につかまる母が哀れなり

圧迫骨折ひと月病みて

●宮古市 太田屋滋

みぞれにも短パン姿元気な児

傘も差さずに僕雨好きなの

●戸田市 久米壽彦

お互いの時間を合わせ子供より

孫に教わるスマホの操作

●戸田市 栗原ハツ江

武人の声幻か切通

鎌倉古道息潜めゆく

●松戸市 秋元輝美

仕事宅訃報の連絡耳にして

「又お願いね!!」の言葉がのこる

●狛江市 根方一吉

逆光に写し出された紅葉見る

隣に银杏眼の保養する

●羽村市 中 新一

初春や新たな希望夢にみて

霊峰富士は雲ひとつ無く

●平塚市 田中博由

俳 句

年賀状輝く歳にと願い込め

●鹿沼市 大貫秀雄

日に透けてススキの原と映ゆ水面

●小山市 塚野 京

梵鐘の一打は父へ冬ざくら

●小山市 原田利江

中ほどに目立つ一樹や枯野原

●本庄市 長谷川千鶴子

寒稽古畳に跳ねる子等の声

●春日部市 石塚 聡

裸木と夕日に向かいペダルこぐ

●草加市 長谷部禎子

肩掛けを膝にのせたる昼餉かな

●戸田市 篠崎志津子

残像に夕日は長く柿すだれ

●朝霞市 林 則雄

水上の汗が笑顔に金メダル

●東京都品川区 佐伯良二

老いてなほ福顔となり生身魂

●東京都大田区 小池弘一

紅白の饅頭恋し紀元節

●東京都練馬区 山口昭義

老人の夜更かし赦せ大晦日

●立川市 浅見 眞

落葉掃くご苦労さんと腰たたく

●武蔵村山市 原野晴光

日溜りを飛んで又飛ぶ冬の蜂

●塩尻市 大家協治

錦秋を極め大滝劔沢

●塩尻市 奥原光夫

園児らが育てた菊の菊花展

●塩尻市 小野正平

青空を鳶巡回す散紅葉

●塩尻市 町田まさ子